

学 位 論 文 要 旨

氏 名 金 子 瞳

題 目 芸術的行為に媒介された専門職としての教師の
協働的で創造的な省察と学びに関する研究

本研究は、芸術的行為に媒介された省察的实践を通して、専門職としての教師が経験する協働的で創造的な省察の過程、及び専門職性を遂行し発揮するためのデザインを明らかにすることを目的とする。

序章では、研究の動機と意義、先行研究の検討、研究の目的、方法、構成を示した。

第Ⅰ章では、ショーン (Donald Alan Schön) の省察概念を整理し、芸術的行為と省察実践の实践的、対話的、創造的構造を示し、教師の省察的实践の分析や事例を文献研究より検討した。本研究における省察的实践家（専門職）としての教師は、その状況や対象に自身の実践の在り方である関係と過程を変化させることで状況を変化させ対応していく実践者であると位置付けた。専門職としての〈行為の中の省察〉は、実践をしながらその枠組みや問題を組み替え、再考し状況を変化させる行為を伴う思考であるとし、専門職の〈省察的実習〉は、実践の現象学の実践の文脈が遂行されるものとした。その上で、芸術のもつ实践的、対話的、創造的構造は、専門職としての教師が行為の中で変化する状況との省察的対話、及び関係や過程、文脈を創造する実践構造と類似することを示した。芸術的行為に媒介された省察的实践の分析方法として「現象学的記述」と「オートエスノグラフィー」、事例として「ビデオカンファレンス」を検討した。

第Ⅱ章では、創造的な省察による学びと変容について、筆者自身が自身の事例を対象に「現象学的記述」と「オートエスノグラフィー」を用いて記述した。事例は、大学院演習「フリースローイング」、「フレイミング」、「行為をつないで 行為に出合って」である。分析考察より、造形表現行為の過程において、実践者は表現（描く、つくる、驚く）と鑑賞（変化する痕跡、色や形）の循環的相互浸透において、色や形に結び付いた存在及び、自らの行為を問い続ける対話を行う。表現及び鑑賞の芸術的行為と対話の過程において、実践者に描き方の変化、自明の見方感じ方の変化、世界の捉え直し、新たなフレームや問題設定といった〈行為の中の省察〉が経験されることを示した。また、自身の事例を筆者が分析、考察する過程は、表現（記述する、オートエスノグラフィー、相互行為分析）と鑑賞（実践記録を見る、現象そのものへ）の循環的相互浸透において、自己のふるまいや気づきと対話し、判断停止や自己のふるまいの省察といった「〈行為の中の省察〉についての省察」が経験されることが示された。

第Ⅲ章では、協働的な省察による学びと変容について、子どもの行為に着目しながら行う、学級担任と筆者による「ビデオカンファレンス」、対象児に関わる教師複数

名での「ビデオカンファレンス」を事例として分析考察した。分析考察から、ビデオカンファレンスに参加する参観者に、参観者—子ども、参観者—他の参観者において、表現（語り、驚き、対象への志向、問い尋ねる）と鑑賞（実践記録を見る、他者の語りを聞く、事象そのものへ）の循環的相互浸透が生成する。子どもとの対話は色や形、コンテキスト、子どもの経験について、参観者との対話は他者の視点、他者の捉える対象の視点との対話が行われた。表現及び鑑賞の芸術的行為と対話の過程において、参観者に、意味生成、現実世界のつくり変え、意味の更新といった〈行為の中の省察〉が経験されることが示された。

第Ⅳ章では、第Ⅱ章「フリースローイング」他の事例及び第Ⅲ章子どもの造形表現行為や作品に着目して語り対話する「ビデオカンファレンス」事例の分析結果に基づき、〈行為の中の省察〉と《〈行為の中の省察〉についての省察》という実践の現象学の文脈より、〔子ども—造形物〕における表現と鑑賞の関係に対するカンファレンス参観者の表現と鑑賞の関係が意味生成する過程を示した。そして、芸術的行為に媒介された専門職としての教師の省察的实践としての学びのデザインを、以下の省察的实践のデザイン要素により示した。(1) 創造的行為に媒介された省察的实践のデザイン、(2) 鑑賞行為に媒介された省察的实践のデザイン、(3) 対話による協働的行為に媒介された省察的实践のデザイン。

終章では、本研究全体のまとめ、教育実践学への貢献、今後の課題を示した。

専門職としての教師の省察は実践の中に埋め込まれ、不確実な実践状況における関係、過程、文脈を実践しながらつくり、つくり変え、つくる営為である。この実践は、表現（造形表現行為、対話、現象学的記述、オートエスノグラフィー）と鑑賞（実践事例を見る、ビデオカンファレンス）の循環によって他者との関係、行為の過程、文脈を組み替える。それは専門職としての〈行為の中の省察〉—《〈行為の中の省察〉についての省察》という実践の現象学において、意味、関係、文脈を生成する。この芸術的行為の持つ表現と鑑賞の行為に媒介された、他者と共に実践や実践世界を生成する協働的で創造的な省察的实践は、実践そのものであり、専門職としての省察实践であり、専門職としての教師の学びであり、専門職の学びの在り方である。また専門職としての教師の協働的で創造的な省察的实践は、〈創造—鑑賞—対話〉を活動要素とする相互浸透的で重層的構造としてデザインされる。自身で実践しながらデザインし実践する、その循環が専門職性を遂行しながら発揮する創造的实践の在り方である。

以上より、芸術的行為としての表現と鑑賞の循環に媒介された省察的实践を通して、専門職としての教師が他者と共に実践や実践世界を生成する協働的で創造的な省察的实践課程過程及び、専門職性を遂行し発揮するための〈創造—鑑賞—対話〉活動を要素とした学びのデザインを明らかにした。

また、図画工作科のもつ学びの構造が教師の省察的实践の中核となる新たなアプローチであること。子どもの学びと教師の学びが実践の中でのみ起こる二つの事象の関係を相互作用的に指し示す新たな教育実践のパラダイムであること。以上2点を提示し本研究の独自性とした。